

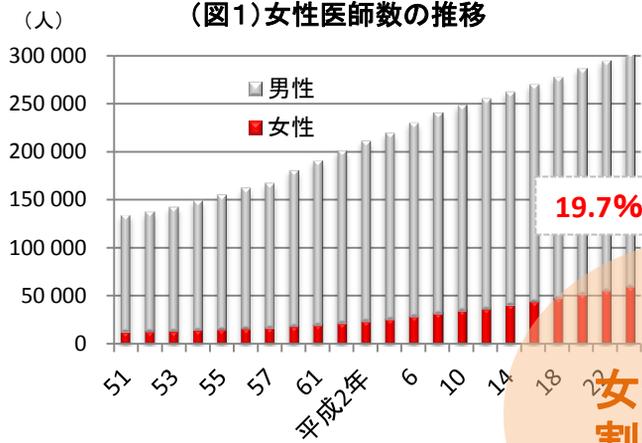
～安全かつ継続的な医療を提供していくために～

「女性医師のさらなる活躍を応援する懇談会」報告書概要 ①

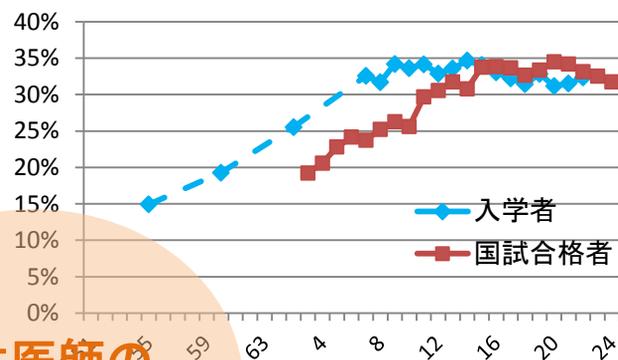
女性医師を取り巻く状況

- 近年、女性全般の社会進出に伴い、女性医師の割合が増加傾向にあり、現在、医学部生の約1/3が女性です。(図1、図2)
- これまで女性医師が少なかった診療科や職場、指導医や管理者においても、その割合が増えることが予想されています。(図3、図4)
- 女性医師は、妊娠・出産等により、仕事と生活を両立させることが困難となってキャリアを中断せざるを得ない場合が多く、女性医師を取り巻く状況を前提としたさらなる環境整備が求められています。

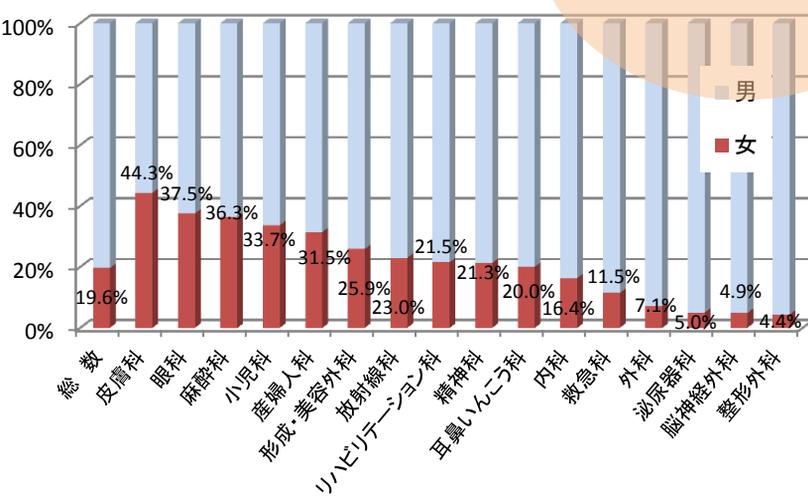
(図1) 女性医師数の推移



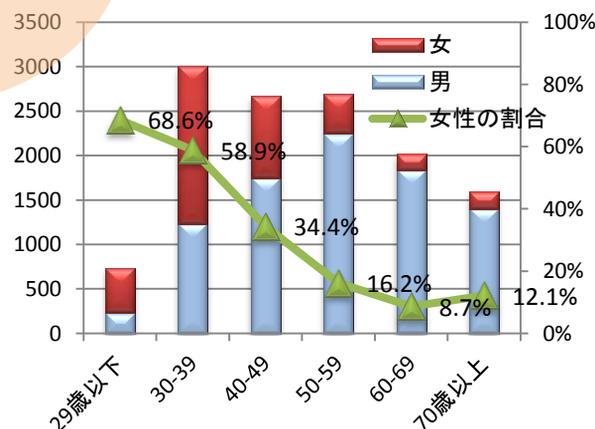
(図2) 医学部入学者・国家試験合格者数に占める女性の割合



(図3) 診療科別 医師男女比



(図4) 年代別女性医師数とその割合(産婦人科)



(出典) 医師・歯科医師・薬剤師調査(厚生労働省)、厚生労働省医政局医事課試験免許室調べ、学校基本調査(文部科学省)

女性医師が働き続けやすい環境整備を進めるにあたっての視点

- 医療の質を確保し、患者に必要な医療を安全かつ継続的に提供していくためにも、女性医師が働き続けやすい環境整備が重要です。
- 女性医師が働き続けやすいように、社会全体が個々の医師のニーズに応じた多様な働き方を支援していくにあたっては、妊娠や出産等のライフイベントにかかる負担軽減を含めた職場の環境整備を進めるとともに、モチベーションを維持・向上しながら自らの希望するキャリア形成を図り、医師としての社会的役割を果たしていくという視点が必要です。
- 性別や職種を問わず、医療従事者全体の勤務環境の整備と調和することが必要です。

～安全かつ継続的な医療を提供していくために～

「女性医師のさらなる活躍を応援する懇談会」報告書概要 ②

□ ライフイベントを抱える医師への包括的支援

女性医師が働き続けやすい環境整備を進めるにあたっての視点を踏まえながら、様々な場や立場から、妊娠や出産等のライフイベントを抱える医師を包括的に支援していくことが必要です。

医師としての社会的役割・プロフェッショナリズム

キャリア形成・継続、モチベーション維持・向上

【大学】

キャリア教育、多様なロールモデル提示、復職支援、キャリア形成支援、経験共有の場の提供等

【学会】

復職支援、キャリア形成支援等

【日本医師会等】

各地域の取組例の収集・紹介、女性医師バンク、病院管理者研修、講演会等

【臨床研修・専門医制度】

中断、更新にかかる配慮等

ライフイベントにかかる負担軽減

【医療機関等】(再掲)

①職場の理解

普及啓発等(制度や社会資源の周知等)

②保育環境の整備

院内保育所の柔軟な運営(24時間保育、病児保育等)、民間サービスの利用しやすい工夫等

指導的
立場

支援を受ける医師の取組
医師としての役割を主体的
に果たす、感謝等

キャリア

モチベー
ション

職場・
仕事

ライフ
イベント

支援

【都道府県】

相談窓口、院内保育所
への補助、医療勤務環
境改善支援センター等

【国】

女性医師バンク、都道
府県への財政支援等

支援

職場における環境整備

【医療機関等】 管理者自らが女性医師を取り巻く状況やニーズを認識し、活用できる制度や社会資源を十分に把握し、総合的な取組を推進

①職場の理解

管理者や上司自らが進める職場の雰囲気作り、公平感の醸成等(管理者研修の活用、適切な業務配分等)

②相談窓口等

ワンストップ相談、先輩の経験共有等(専任スタッフ、情報交換会等)

③勤務体制

柔軟な勤務形態(短時間正規雇用、交替勤務制、当直や時間外勤務への配慮等)

④診療体制

チーム医療推進、地域医療における連携等(複数主治医制、事務補助職活用等)

⑤保育環境

院内保育所の柔軟な運営等(24時間保育、病児保育等)

⑥復職支援

医学知識や診療技術の提供等(e-learning、実技実習等)

医療の質の確保 安全かつ継続的な医療提供

(参考)「女性医師のさらなる活躍を応援する懇談会」とは

□ 経緯

日本の生産年齢人口(15～64歳)は、少子高齢化の進展に伴い、今後急速に減少します。

女性が活躍しやすいよう、男女を通じて長時間労働を是正し、子育てしながら当たり前に行き続けることができる社会とすることは、今後の日本経済の持続的成長等に寄与するものと考えられています。

こうしたことを受けて、我が国では、安心して妊娠・出産・子育て等ができる社会環境の整備等、女性が輝くことのできる社会の基盤を支える様々な施策を進めています。

一方、近年、医師における女性の割合が高まっており、現在、医学部生の約3分の1が女性となっていますが、女性医師の中には、妊娠・出産等によりキャリアを中断せざるを得ない場合があり、女性医師が働き続けやすい環境整備の在り方が課題となっています。

これまで、国や都道府県、関係団体のそれぞれが、この課題について取組を進め、関係者の認識を深めると共に、復職支援や院内保育所の設置等、一定の成果を上げてきました。

こうした中、平成26年6月に改訂された「日本再興戦略」において、女性医師が働きやすい環境の整備を図るため、「女性医師による懇談会の設置」が盛り込まれました。

これを受けて、現場の課題や取組の工夫の在り方などを検討し、女性医師がライフステージに応じて活躍できる環境整備をさらに進めていくため、厚生労働事務次官の下、「女性医師のさらなる活躍を応援する懇談会」を新たに立ち上げました。

□ 懇談会委員

(五十音順) ◎座長

岩本 あづさ	(国立国際医療研究センター国際医療協力局医師)
恵谷 ゆり	(大阪府立母子保健総合医療センター消化器・内分泌科 部長)
笠井 英夫	(日本医師会 常任理事)
片岡 仁美	(岡山大学大学院 地域医療人材育成講座 教授)
木戸 道子	(日本赤十字社医療センター 第二産婦人科 部長)
甲能 直幸	(全国医学部長病院長会議 副会長)
高橋 政代	(理化学研究所 発生・再生科学総合研究センタープロジェクトリーダー)
津下 一代	(あいち健康の森健康科学総合センター センター長)
西澤 寛俊	(全日本病院協会 会長)
別役 智子	(慶應義塾大学医学部内科学(呼吸器) 教授)
安田 あゆ子	(名古屋大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 副部長)
◎山本 纈子	(日本女医会 会長)

□ 開催状況

- 平成26年 8月8日 第1回懇談会(現状及び課題等について討議)
8月24日 シンポジウム(懇談会メンバーによる基調講演、医学部生等との意見交換)
10月3日 第2回懇談会(現状及び課題等について討議)
12月5日 第3回懇談会(報告書案について討議)
平成27年 1月23日 報告書公表